



## 企画展 江口寿史イラストレーション展 彼女

—世界の誰にも描けない君の絵を描いている—



「リアルワインガイド」72号表紙(2002)

©2022 Eguchi Hisashi

江口寿史は昭和31（1956）年熊本県に生れ、中学3年生の時に千葉県野田市に転居しました。県立柏高等学校を卒業後、昭和52（1977）年に21歳でマンガ家としてデビューし、同年より週刊少年ジャンプに、流山市を拠点とする架空のプロ野球チーム「千葉パイレーツ」を主題としたギャグマンガ『すすめ!!パイレーツ』の連載を開始しました。昭和56（1981）年には、同誌に発表した、『ストップ!!ひばりくん!』で“美少女”の男子を主人公に描き、大ブレイクしました。以後、同時代の若者の音楽やファッションを取り込んだ、斬新なポップセンスと独自の作画で、マンガのスタイルを変革し、多様なジャンルのアーティストに影響を及ぼしました。80年代以降は、イラストレーターとしても活躍し、雑誌の表紙、本の挿画や装幀、CDジャケットや商品広告などの魅力に富んだイラストレーションの仕事は高く評価されています。

本展では、江口氏が45年にわたって追い求めた女性の美しさを、約500点のイラストで、6つの章に分けて紹介します。

### 開催概要

会 期 / 令和4年10月29日(土)～令和5年1月15日(日)

開館時間 / 9時～16時30分(入場は16時まで)

休 館 日 / 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日)  
年末年始(12月28日～1月4日)

入 場 料 / 一般500円、高校・大学生250円  
(中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者は1名無料)

主 催 / 千葉県立美術館

特別協力 / 東京新聞、KOTOBUKI STUDIO

### 関 連 事 業

- ライブドローイング / 10月29日(土)・30日(日) 10時～15時
- ライブトーク / 11月19日(土) 13時30分～15時
- ライブスケッチ / 11月26日(土) 10時～16時15分

### 《第1章 遭逢 ポップの美神たち》

CDジャケットや本の表紙を縦180cmや120cmの大型キャンバスに出力しました。ポップ感が炸裂する大画面に新たな魅力を発見します。

### 《第2章 恋慕 マンガからイラストレーションへ》

連載マンガの扉絵や単行本カットの原画など、デビュー当初から現在に至る幅広い仕事を紹介します。

### 《第3章 素顔 美少女のいる風景》

1999～2000年に描かれ、週刊コミック誌の表紙を飾った最後の手塗り作品群です。

### 《第4章 艶麗 ワインを持った女たち》

2002年から現在も続くワインガイド誌の表紙のほか、その下絵や線画も展示します。

### 《第5章 青春 音楽とファッション》

CDジャケット画を中心に、若者の持ち物やファッションを描いた作品を展示します。

### 《第6章 慈愛 今を生きる彼女たち》

近年の仕事を発表する吉祥寺サンロードバナー20連作が見る人を圧倒します。

2022年最新の江口寿史ワールドを千葉県立美術館でお楽しみください。

展覧会予告 会期／令和5年1月25日(水)～3月21日(火・祝)

## 山下麻衣＋小林直人 —もし太陽に名前がなかったら—

山下麻衣(やました・まい、1976年生まれ)＋小林直人(こばやし・なおと、1974年生まれ)(以下、山下＋小林)は、映像作品やインスタレーションによって国内外の芸術祭や展覧会で活躍する、千葉県出身のアート・ユニットです。2001年から公式にユニットとしての活動を開始した後、ベルリンからヨーロッパ各国、アメリカへと活動の幅を広げていった山下＋小林は、2012年末から二人が生まれ育った千葉に拠点を移して制作を続けています。本展は彼らの初期作から新作に、特別に制作を委託した新作を加えた計10シリーズ57点の作品で構成される、国内では過去最大規模の個展です。

山下＋小林の作品に一貫して見られるのが、自身の行為を媒介として、人、自然、社会相互の関係性や価値観について問いを投げかける制作態度です。第8展示室

は、瀬戸内の夕陽と美しい風景を背景に走る自転車を淡々と映す《世界はどうしてこんなに美しいんだ》(2019年)や、コロナ禍で見えてきた現代社会の多面的な様相に対して独自のアプローチを試みた新作など、帰国後に制作された近作を中心に構成されます。一方第3展示室では、千葉県飯岡海岸で集めた砂鉄から1本のスプーンを铸造するまでを記録した《A Spoon Made From The Land》(2009年)をはじめ、「海」を題材にした作品が並びます。

名前や常識を一旦退けることから始まるアートの世界で「常にわからない恐怖とワクワクする自由を前提に」制作を続ける山下＋小林の作品は、不確かで混沌とした日々を生き抜く手がかりを、私たちにそっと差し出してくれるでしょう。(学芸課 神野有紗)



瀬戸内国際芸術祭2019出品作 《世界はどうしてこんなに美しいんだ》2019年

## 特集 新規事業「対話型鑑賞教室」

今年度は新規に、対話型鑑賞教室を始めました。対話型鑑賞とは、作品に対する自分の発見や思いを自由に語り合う鑑賞方法です。その歴史は浅く、1980年代半ばにアメリカのニューヨーク近代美術館(通称MoMA)で開発され、論理的な思考やコミュニケーション能力を身につけることのできる鑑賞法として確立されました。自分の感覚を言葉にし、他の人の意見やその根拠も知ることができ、他の人への理解を深める姿勢も身につくものとしてその後、世界各国に広がり、国内でも多くの美術館が実施しています。

8月11日に実施されたこの教室では、館蔵の彫刻作品を2点取り上げ、それぞれ15分ずつ対話型鑑賞をしていただきました。参加者がそれぞれじっくりと作品を鑑賞し、発見したこと、感じたことなどを書きとめ、順番に発表していきます。ほかの参加者は、口を挟むことなくその発表を聞き、皆さんの発表が終わったら、今度はその発表を聞い

たうえでの自分の感想をそれぞれ述べていきます。

今回の体験は小学生から年配の方まで、10名の参加がありました。

みなさん、他の方の考え方や自分では注目していなかったところの感想などをきくことができ、自分の考えも深まり、楽しかったようです。

対話型鑑賞は、どんな年齢層の方や障がいのある方なども参加できますので、当館でも今後、幅を広げて実施していきたいと思っています。次回は11月23日(木・祝)の実施です。皆様のご参加をぜひ、お待ちしております。



8月11日に実施された対話型鑑賞教室の様子

## コレクション展

### 令和4年度 コレクション展の概要

当館は、洋画や日本画をはじめとして約2,800点のさまざまな作品を収蔵しています。この中から、知名度が高く人気の高い作家の作品を紹介する「名品」と、様々な切り口で特定のテーマに沿って紹介する「テーマ展示」の二本立てで、開催期間を変え年間4回紹介をしています。開催ごとに内容が変わる新しい展示にご期待ください。

#### 第4期 名品4－旧制千葉中学から広がる堀江正章の系譜－

堀江正章は、安政5（1858）年に長野県松本市に生まれ、東京に出て日本初の官立美術学校である工部美術学校に学んだ浅井忠の後輩にあたる洋画家です。師であるサン・ジョバンニの影響を受けた明るい画風の絵を描きました。卒業後は画塾で講師として岡田三郎助、中沢弘光らを指導しました。

明治30（1897）年、旧制千葉中学校（現 千葉県立千葉高等学校）の図画教師に就任し、35年間勤めました。



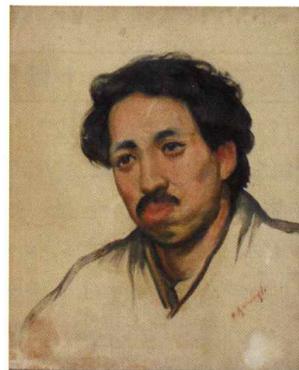
堀江正章《耕地整理図》

この時に会った西村房太郎校長は、展覧会で堀江の作品を見てその実力を見抜き、よき理解者として生涯堀江を支えました。よく知られた作品として《耕地整理図》や《室内草花図》などがあります。

しかしながら、堀江は図画教師の免許状を持っていなかったため、正規の教員ではなく、西村校長が教員免許の申請を堀江に勧めたところ、かつての教え子に資格を量られるのを嫌って断ったというエピソードが残っています。

堀江は旧制千葉中学校在任中、柳敬助、石井林響、大野隆徳、菅谷元三郎、板倉鼎など多くの逸材を育てています。

本展では、堀江正章とその系譜に連なる作家の作品を紹介します。



柳敬助《内田邦彦像》

#### 学芸員が選ぶ“この一点”

### 大野隆徳《湯の川（紀州）の春》



大野隆徳《湯の川（紀州）の春》  
不詳 油彩・キャンバス 53.5×72.8cm

作者は明治19（1886）年に本県旧山武郡の旧家に生まれ、旧制千葉中学校で図画教師堀江正章に学び、美術に目覚めます。

将来は医者を目指し夏休みごとに上京して英語学校で学びましたが、その都度、神田の本屋で西洋の美術図書を購入していました。

中学校卒業後、東京美術学校西洋画科に入学し、東大生の弟と日本橋際の下宿に住みました。在学中にこの下宿屋から見た景色を描いた《日本橋》が第3回文展に初入選します。同校西洋画科を首席で卒業後、第6回文展で褒状、第10回文展と第1回帝展で特選をとりました。

大正11～13年に渡欧しパリ滞在中、サロンで入選を果たします。新文展、光風会展にも出品し、大野洋画研究所を創立し後進を育成。また従軍画家として中国に赴きます。しかし、自身の出征も控えた時に、脳の障害により左半身が不随となり、昭和20（1945）年の東京大空襲で作品、蒐集品、資料の殆どを自宅・アトリエ・研究所とともに失い、自身も59歳で戦災死しました。

この作品には和歌山の温泉地帯、湯川の春ののどかな情景が描かれています。手前の人物から始まって、川を渡って向こうの山々へ視線が伸びてゆく構図が爽快です。このように作者は大胆な構図と明快な色彩対比、軽快な筆運びによる作品を多く描きました。戦争前の光景でしょうか。さらっとして懐かしさのある和やかな情緒が漂っています。それゆえに戦災で散ってしまった作者の無念の想いが伝わってくるかのようです。

（学芸員 相川順子）

## 普及課事業の紹介と予告

### 夏休みワークショップ

夏休みワークショップーねんどで遊ぼうーを8月6日(土)に開催しました。千葉大学教育学部の小橋暁子先生のご指導により、年中から小学5年生までの15名が、焼き物用のテラコッタ粘土の造形に挑戦しました。厚さ7mmの板状の粘土にクッキー型を押し、竹串やストローで描いて模様を付け、ピンに巻き付けて形を作り上げるなど、思う存分粘土に触れるひとときになりました。1週間ほど乾燥させた後、素焼きした作品は、夏休みに美術館で過ごした思い出とともに持ち帰りいただきました。



夏休みWSの様子

### 予告 博学連携事業 「彫刻に触れるときーさわるとみるがであう彫刻展ー」

筑波大学芸術系宮坂慎司研究室との連携事業は、触れることのできる彫刻展を開催します。彫刻の特性を活かし、従来の「みる鑑賞」に加え「手で触れる鑑賞」が可能な誰もが楽しめる展覧会です。大学所属作家、美術団体などの作家の出品作品は、すべて触れることを前提とした作品です。会期は2月21日(火)から3月19日(日)、会場は第7展示室です。関連事業として、彫刻の鑑賞とメンテナンスワークショップ「美術館の彫刻と仲良くなろう! 彫刻ピカピカ大作戦」を9月3日(土)、10月10日(祝・月)に設定し、野外彫刻を各日ブロンズ像と石像から1点ずつ選び、作品の鑑賞と清掃を実施しました。また、3月5日(日)には、彫刻制作ワークショップ「ハイ! チーズ! ポーズを決めてテラコッタ彫刻をつくろう!」を開催します。なお参加者の作品は素焼きの後、展覧会場に展示する予定です。

### 予告 【成田アート博覧会】

11月12日(土)から27日(日)まで、成田市にある成田山表参道仲之町商店街及び成田観光館を会場に、「第12回成田アート博覧会」を開催します。

成田アート博覧会とは、仲之町商店街の約30店舗の店頭や成田観光館の3階ギャラリーを会場に、成田市内で学ぶ小・中学生が「私たちの成田と日本」をテーマに学校の授業などで制作した絵画を中心とする地域の展覧会です。国際色豊かな鑑賞者を想定して、日本語と英語による作品解説文を添えて展示します。今年度も、仲之町商店街を学区に含む成田市立成田中学校が主催し、成田市立成田小学校、仲之町街づくり協議会、成田市観光協会及び当館が協力する形で開催します。

例年、「成田山公園紅葉まつり」に合わせて開催され、参道を行き交う多くの人々の賑わいの中に、楽しくて少し素敵な「芸術の秋」をお届けします。ぜひ、足を運んでみてください。



店頭の作品展示状況

### ワークショップのご紹介

#### 「100人ワークショップ・等身大から始めようー自然木で組み上げるー」 予告

千葉大学教育学部加藤修研究室との連携事業、「100人ワークショップ・等身大から始めようー自然木で組み上げるー」は平成22年度より実施しているものです。

一昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で開催が中止となりましたが、今年は昨年に引き続き開催が見込まれ、12回目を迎えます。

11月12日(土)、千葉大学の学生(普遍教育教養展開科目受講生)がファシリテーターとなり、県内の中学校美術部を中心としたグループが参加し、美術館7室前の芝生広場に、自然木をシュロ縄で結んで組み上げ、巨大なオブジェを造ります。できあがった作品は、12月初めまで芝生広場に展示する予定です。

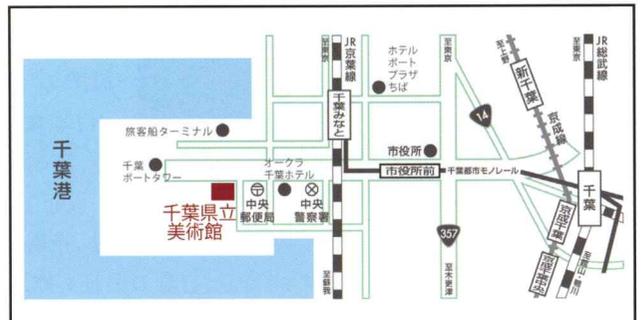


昨年の様子

### 【新型コロナウイルス感染症対策について】

千葉県立美術館は、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で開館しております。

ご来館の皆様におかれましては、当館受付・HPに掲載しております「感染拡大防止へのご協力のお願い」をご確認いただけますよう、お願いいたします。



〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1  
Tel.043-242-8311 Fax.043-241-7880

ちばけんび  で検索

千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL.49  
(通巻111号)

令和4(2022)年10月29日発行

